

◎体育的活動における安全対策について

1 これまでの経緯

平成28年3月25日付スポーツ庁事務連絡「組体操等による事故の防止について」を受け、平成28年4月に「横須賀市体育的活動における安全対策検討委員会」を設置し、以降、組体操を含めた体育的活動における安全対策について検討してきた。

特に運動会等で実施される組体操については、学校保健安全法第26条に基づき、「各学校が、校長の責任の下で組織的な指導体制を構築することが重要であり、特に実施のねらいについては各学校で改めて問い直すとともに、全教職員で共通理解を図るよう求める」ことが確認され、市教育委員会としては主に次のことに取り組んできた。

- ・市内小中学校の組体操の実施状況の把握（事前報告、事後調査）
- ・市内小中学校の指導計画や演技内容、実際の指導場面に対する指導助言
- ・組体操の指導方法に係る研修会の実施
- ・組体操に起因する事故発生状況の把握

平成30年3月、今年度第2回目の検討委員会を開催し、今年度の組体操の実施状況や事故の発生状況をもとに、市教育委員会の取組や各学校の取組における成果と課題について検証した。

2 平成29年度の市内小・中学校の状況

- ・組体操の実施校数は小学校46校中29校（前年度比－3校）、中学校23校中9校（同＋0校）だった。実施率にすると、小学校63.0%（同－6.9%）、中学校では39.1%（同＋0%）だった。
- ・「実施のねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること」、「実施する技の選択を含め、指導計画を適切に見直すこと」、「具体的な事故事例や事故になりやすい技などの情報を周知すること」など、スポーツ庁事務連絡を受けて各校に通知した内容は、ほとんどの実施校が「おおむね達成できた」と回答した。
- ・「指導時間の確保と段階的指導」、「適切な教職員の配置、児童生徒の実態に応じた演技内容の見直し」については、多くの実施校が意識的に取り組んだと回答した。
- ・多くの実施校が「教職員の世代交代に伴う、指導方法の継承」、「年間を通じた体力向上の取組」が今後の課題であると回答した。
- ・組体操に起因する事故の発生件数は、小学校で3件（前年度比－2件）、中学校で11件（同－13件）だった。実施校1校あたりの発生率にすると、小学校で0.10件（同－0.06件）、中学校で1.22件（同－1.45件）だった。
- ・特に中学校で事故件数が大きく減少しているが、タワーやピラミッドでの受傷事故が数件起きている。
- ・全14件の事故のうち、「骨折」と診断されたものは3件（小学校1件、中学校2件）だった。

3 次年度の方向性

- ・体育的活動における安全対策については、引き続き、各学校において、校長の責任の下で組織的な指導体制を構築し、取り組むものとする。
- ・組体操実施に関しては、実施のねらいを明確にするとともに、児童生徒の体力等の状況を的確に判断した上で指導を計画するよう、さらに求める。
- ・調査結果から明らかになったこと（事故の発生状況や、安全対策に係る参考となる事例など）を、体育・保健体育科担当者会、市立学校長会議などを通じて各学校へ周知する。

平成29年度 体育的活動（主に組体操）における安全対策の取組の経過

月	日	曜	内容等
4	3	月	「学校における体育活動中の事故防止等について(通知)」の発出
	6	木	「組体操等による事故の防止について(通知)」の発出 (組体操実施予定の報告依頼)
			市立学校合同体育/保健体育科担当者会 (組体操等による事故防止の通知内容について説明)
5	2	火	組体操実施予定報告の回収・疑義について問い合わせ (小学校2件・中学校2件)
	15	月	横須賀市体育的活動における安全対策検討委員会第1回委員会の開催
	20	土	小学校運動会視察(2校) ※内組体操実施は2校
	27	土	小学校運動会視察(26校) ※内組体操実施は14校
6	3	土	小学校運動会視察(3校) ※内組体操実施は2校
8	15	火	中学校保健体育研究会による組体操安全指導に関する自主研修会 (不入斗中学校武道館)
	16	水	
9	9	土	中学校体育祭視察(12校) ※内組体操実施は4校
	16	土	中学校体育祭視察(11校) ※内組体操実施は5校 (一部の学校は、体育祭を19日火曜日に延期)
10	中旬～ 下旬		小学校1校から組体操指導に対する助言要請 (保健体育課指導主事派遣 17日(火)・23日(月)・25日(水))
	21	土	小学校運動会視察(1校) ※内組体操実施は1校
	28	土	小学校運動会視察(13校) ※内組体操実施は12校
2	5	月	「平成29年度市立小中学校における「組体操」取組状況等調査について(依頼)」の発出
3	8	木	第2回検討委員会の開催(平成29年度のまとめと平成30年度の方向性検討)

平成29年度 市立小・中学校における組体操組状況等調査 集計結果

【調査時期】平成30年2月5日から2月19日までの期間

小学校	設置数	回収数	回収率
	46	46	100%

中学校	設置数	回収数	回収率
	23	23	100%

○組体操実施校数の推移（平成25年度以降）

小学校の実施校数は、調査開始以降年々減少傾向にあり、平成29年度は全46校中29校（実施率63.0%）だった。中学校では、調査開始以降若干の減少があったが、ほぼ一定の水準で推移しており、平成29年度は全23校中9校（実施率39.1%）だった。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	実施校数	実施率	実施校数	実施率
H25年度	—	—	10校	43.5%
H26年度	45校	97.8%	8校	34.8%
H27年度	39校	84.8%	10校	43.5%
H28年度	32校	69.7%	9校	39.1%
H29年度	29校	63.0%	9校	39.1%

※注1

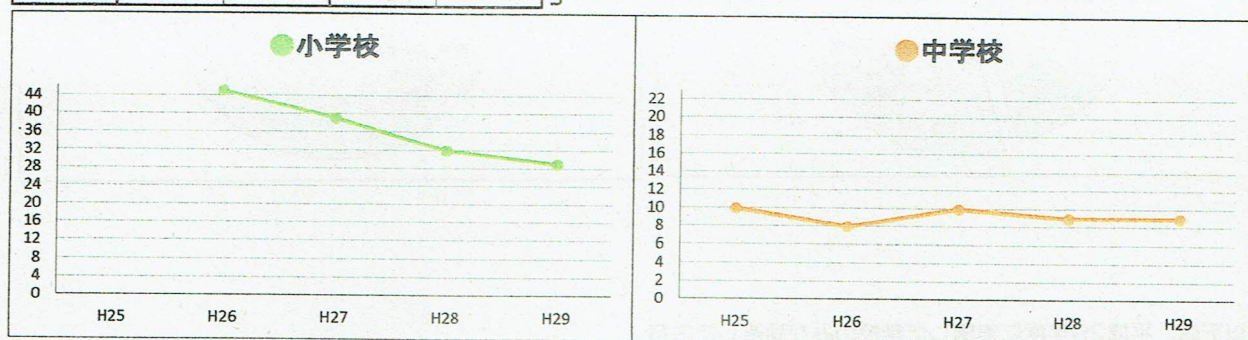
※注1：平成25年度、小学校の実施状況は調査していない。

※注2

※注2：平成26年度、中学校の1校においては、体育祭を開催していない。（文化祭と隔年で実施）

※注3

※注3：平成27・28・29年度、中学校の1校において、応援合戦の演技で1部の生徒を対象に行った数が含まれている。

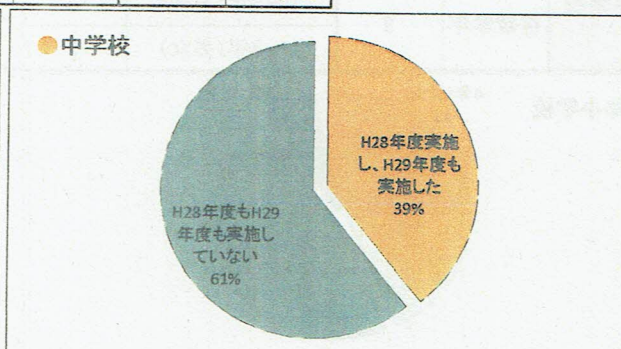
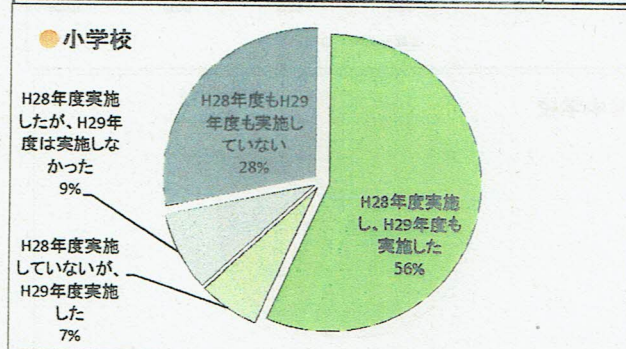


○平成28年度と平成29年度の実施状況について

小学校において、平成29年度に組体操を実施した29校のうち、昨年度から継続して実施したのは26校、昨年度は実施していなかったのは3校だった。また、今年度実施しなかった17校のうち、昨年度から継続して実施しなかったのは13校、昨年度は実施したが平成29年度は実施を見送ったのは4校だった。

中学校では、実施した学校・実施しなかった学校とも、全て昨年度と同様の状況だった。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	回答数	%	回答数	%
H28年度実施し、H29年度も実施した	26	56.5	9	39.1
H28年度実施していないが、H29年度実施した	3	6.5	0	0.0
H28年度実施したが、H29年度は実施しなかった	4	8.7	0	0.0
H28年度もH29年度も実施していない	13	28.3	14	60.9



昨年度は実施したが平成29年度は実施を見送った学校が挙げたその「主な理由」は次の通りだった。

小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度の低い技で演技することも検討したが、学校評価の保護者の意見や安全面を考慮した。また、小中連携校でも組体操を行わないことになったため。 ・各学年で、希望がなかったため。 ・保護者から安全面に関する問い合わせが多数寄せられたため。 ・安全面を配慮した。また、集団行動でも同等の達成感が味わえると思ったため。
中学校	※該当なし

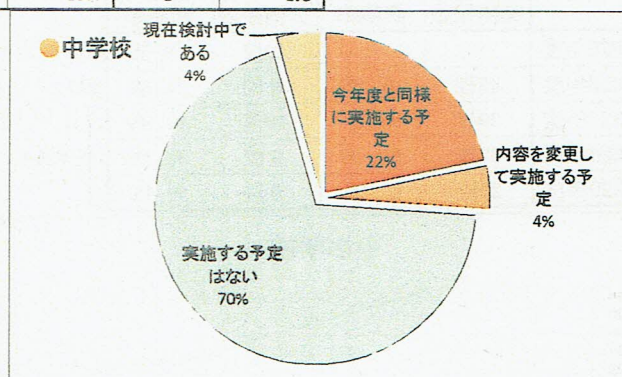
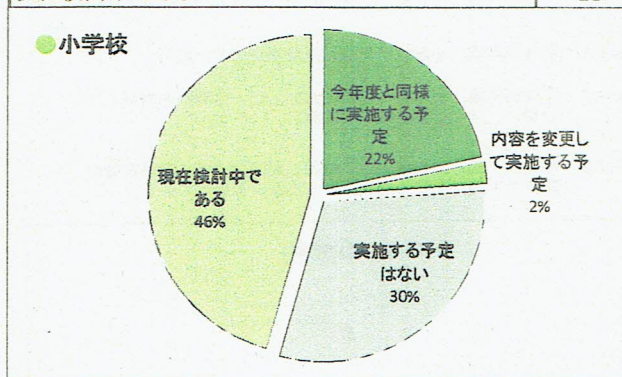
○平成30年度の実施予定（平成30年1月末の予定）

小学校では11校、中学校では6校が、平成30年度において組体操を実施予定であると回答した。このうち、今年度と同様に実施を予定しているのは、小学校10校、中学校5校だった。

また、実施する予定はないと回答したのは、小学校で14校、中学校で16校であり、特に中学校では平成29年度に実施しなかった学校数をすでに上回った。

なお、小学校21校、中学校1校が現在検討中であると回答した。

	小学校（全46校）		中学校（全23校）	
	回答数	%	回答数	%
今年度と同様に実施する予定	10	21.7	5	21.7
内容を変更して実施する予定	1	2.2	1	4.3
実施する予定はない	14	30.4	16	69.6
現在検討中である	21	45.7	1	4.3



※以下は、平成29年度に実施した学校のみが回答した内容

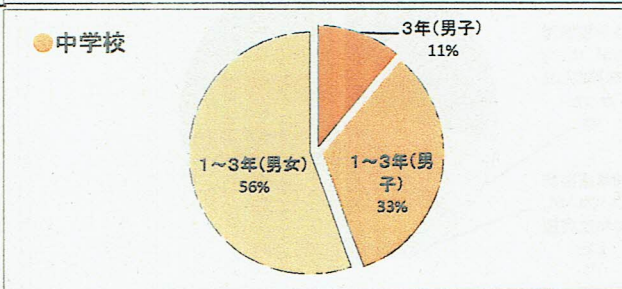
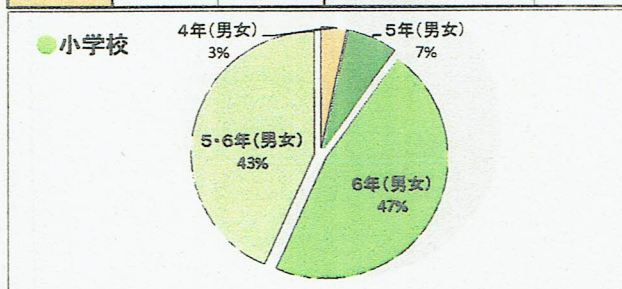
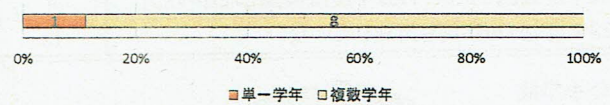
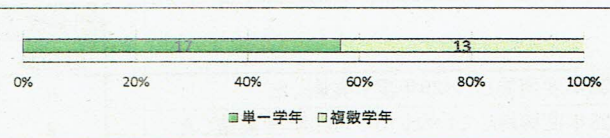
○実施した学年等の状況

小学校では、単一学年での実施と複数学年での合同実施に分かれた。また、多くの学校で高学年（5・6年）を対象に行われた。

中学校では、ほとんどの学校が全ての学年（1～3年）を対象に実施された。

なお、小学校では全ての学校が男女を対象に実施したが、中学校では男子のみの実施と、男女での実施に分かれた。

校種	学年		内訳	
	単一学年	複数学年	学年	人数
小学校	17	13	4年(男女)	1
			5年(男女)	2
			6年(男女)	14
中学校	1	8	3年(男子)	1
			1～3年(男子)	3
			1～3年(男女)	5



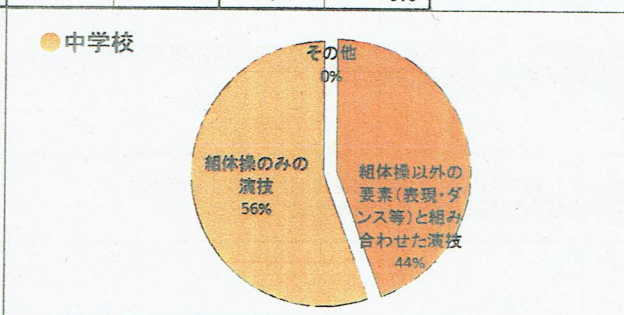
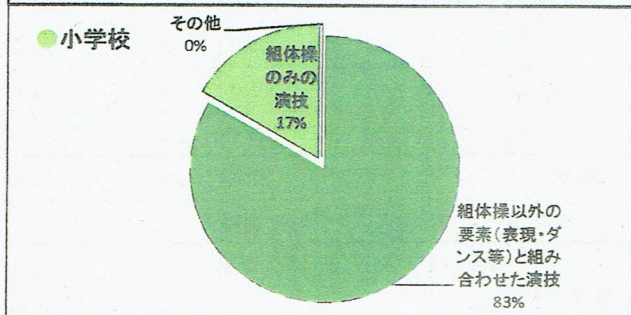
【補足】小学校のうち1校は、4年生と6年生において、それぞれで単一学年の演技として実施した。

○実施形態の状況

小学校では、多くの学校が組体操以外の要素（表現運動・ダンス等）と組み合わせた演技として実施したが、組体操のみの演技も5校ほど見受けられた。

中学校では、組体操以外の要素と組み合わせた演技と、組体操のみの演技とに分かれた。

	小学校（実施29校）		中学校（実施9校）	
	回答数	%	回答数	%
組体操以外の要素（表現・ダンス等）と組み合わせた演技	25	86.2	4	44.4
組体操のみの演技	5	17.2	5	55.6
その他	0	0.0	0	0.0



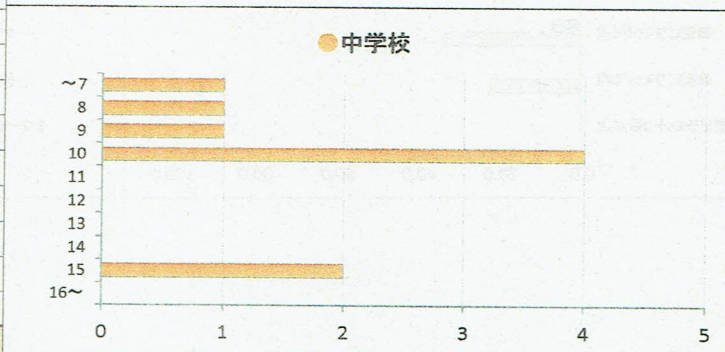
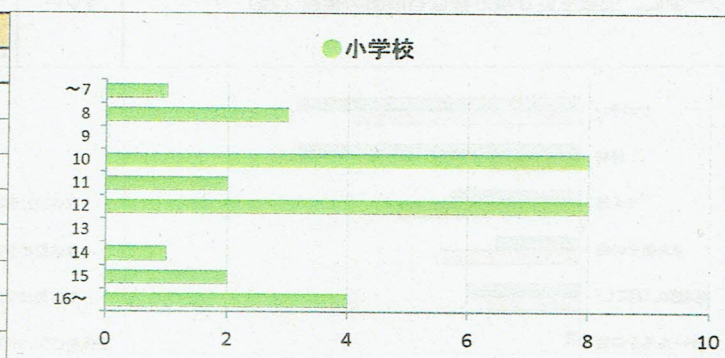
【補足】小学校のうち1校は、4年生と6年生において、それぞれでことなる形態の演技として実施した。

○演技発表における指導単位時間数の状況

小学校では、10単位時間と12単位時間という回答が、中学校では、10単位時間という回答が、最も多かった。

また、もっとも多い指導単位時間は、小学校では20単位時間（1校）、中学校では15単位時間（2校）であり、もっとも少ないのは、小学校では4単位時間（1校）、中学校では6単位時間（1校）だった。

	小学校（実施29校）		中学校（実施9校）	
	回答数	%	回答数	%
4時間	1	3.4		
5時間				
6時間			1	11.1
7時間				
8時間	3	10.3	1	11.1
9時間			1	11.1
10時間	8	27.6	4	44.4
11時間	2	6.9		
12時間	8	27.6		
13時間				
14時間	1	3.4		
15時間	2	6.9	2	22.2
16時間				
17時間	1	3.4		
18時間	2	6.9		
19時間				
20時間	1	3.4		
平均指導時間	11.8		10.3	



○指導している種目（技）の状況

小中学校ともに、「2人組等で、一方が相手のひざの高さ以上の部位に乗り、下肢を支えられる形態の種目（技）」の実施率が比較的高かった。

「ピラミッド型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）」と「タワー型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）」においては、中学校での実施率が比較的高かった。

なお、もっとも高い段数の実施は、俵型ピラミッドで5段（中学校2校）、立体型ピラミッドで6段（中学校1校）、タワーで4段（小学校2校・中学校1校）だった。

種目（技）の形態・名称等		小学校（実施29校）		中学校（実施9校）		
		回答数	%	回答数	%	
2人組等で、一方が相手のひざの高さ以上の部位に乗り、下肢を支えられる形態の種目（技）	サボテン	20	69.0	5	55.6	
	肩車	20	69.0	2	22.2	
	2人塔	9	31.0	4	44.4	
	その他	6	20.7	3	33.3	
倒れてくる児童生徒を他の児童生徒が受け止めたり、元の位置に跳ね上げたりする形態の種目（技）	地藏倒し(起こし)	8	27.6	2	22.2	
	その他	1	3.4			
ピラミッド型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）	俵型ピラミッド	4段	2	6.9	3	33.3
		5段			2	22.2
		6段以上				
	立体型ピラミッド	4段	2	6.9		
		5段				
		6段			1	11.1
		7段以上				
	タワー型に、児童生徒が積み重なる形態の種目（技）	タワー	3段	13	44.8	5
4段			2	6.9	1	11.1
5段以上						

種目（技）	小学校 (%)	中学校 (%)
サボテン	69.0	55.6
肩車	69.0	22.2
2人塔	31.0	44.4
2人組その他	20.7	33.3
地藏倒し(起こし)	27.6	22.2
フォール系その他	3.4	
俵型ピラミッド4段	6.9	11.1
俵型ピラミッド5段		
俵型ピラミッド6段以上		

種目（技）	小学校 (%)	中学校 (%)
立体型ピラミッド4段	6.9	
立体型ピラミッド5段		
立体型ピラミッド6段		11.1
立体型ピラミッド7段以上		
タワー3段	44.8	55.6
タワー4段	6.9	11.1
タワー5段以上		

○安全指導に関する通知内容の達成状況

平成29年4月6日付け「組体操等による事故の防止について（通知）」にて、「学校の実情に応じて活動内容を検討し、更なる安全対策の徹底を図るために踏まえるべき5点」の内容について、多くの小中学校が「十分達成できた」「おおむね達成できた」と回答した。
 「大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるか確認し、場合によっては実施を見合わせる事」「危険度の高い技について、慎重に選択すること」の2点については、全ての学校が「十分達成できた」と回答した。
 「実施のねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること」「具体的な事故事例等の情報を、指導する教職員に周知徹底すること」の2点については、小学校でそれぞれ2校ずつ「やや課題が残った」と回答した。

小学校（実施29校）	十分達成できた	おおむね達成できた	やや課題が残った	かなり課題が残った
組体操を実施するねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること。	22校 (75.9%)	5校 (17.2%)	2校 (6.9%)	0
児童生徒の習熟の状況を正確に把握し、それに応じて活動内容や指導計画を適時適切に見直すこと。万一、練習中に負傷事故が発生した場合は速やかにその原因を究明し、活動内容の見直しや更なる安全対策を講じるなどの措置をとること。	27校 (93.1%)	2校 (6.9%)		
児童生徒が高い位置に上がる技、一人に多大な負荷のかかる技など、大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるかどうかをしっかりと確認し、できないと判断される場合には実施を見合わせる事。	29校 (100%)			
児童生徒の状況を踏まえつつ、事故につながる可能性がある危険度の高い技については特に慎重に選択すること。	29校 (100%)			
国、県、市からの情報をもとに、具体的な事故の事例、事故になりやすい技などの情報を、指導する教職員に周知徹底すること。	18校 (62.1%)	9校 (31.0%)	2校 (6.9%)	

中学校（実施9校）	十分達成できた	おおむね達成できた	やや課題が残った	かなり課題が残った
組体操を実施するねらいを明確にし、全教職員で共通理解を図ること。	5校 (55.6%)	4校 (44.4%)		
児童生徒の習熟の状況を正確に把握し、それに応じて活動内容や指導計画を適時適切に見直すこと。万一、練習中に負傷事故が発生した場合は速やかにその原因を究明し、活動内容の見直しや更なる安全対策を講じるなどの措置をとること。	8校 (88.9%)	1校 (11.1%)		
児童生徒が高い位置に上がる技、一人に多大な負荷のかかる技など、大きな事故につながる可能性がある技について、確実に安全な状態で実施できるかどうかをしっかりと確認し、できないと判断される場合には実施を見合わせる事。	9校 (100%)			
児童生徒の状況を踏まえつつ、事故につながる可能性がある危険度の高い技については特に慎重に選択すること。	9校 (100%)			
国、県、市からの情報をもとに、具体的な事故の事例、事故になりやすい技などの情報を、指導する教職員に周知徹底すること。	7校 (77.8%)	2校 (22.2%)		

○通知内容以外で、今年度意識的に取り組んだ事柄について

前述の通知内容の他に、「指導時間の確保と段階的指導」「事故防止のための教職員の適切な配置（練習段階から）」「児童生徒の実態に応じた演技内容の見直し」について、多くの学校で取り組まれた。

	小学校（実施29校）		中学校（実施9校）	
	回答数	%	回答数	%
指導時間を十分確保し、段階的に指導する。	28	96.6	9	100.0
資料等を用いて、児童生徒の理解が深まるよう指導する。	17	58.6	6	66.7
年間を通して、児童生徒の体力を十分に高める指導を行う。	16	55.2	6	66.7
練習時から、教職員を適切に配置して事故を防止する。	27	93.1	8	88.9
児童生徒の実態に応じ、演技内容を見直す。	28	96.6	9	100.0
その他	3	10.3	0	0.0

「その他」と回答した学校が、その具体的な内容として挙げたのは、次の通りだった。（小学校のみ）

<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を作成し、指導ポイントの共有を徹底した。管理職を含む職員と練習段階から技の確認をしながら取り組んだ。 昨年度の反省等も生かして取り組んだ。 4月から体づくり運動やマット運動などの単元で、倒立練習・ペアで運動する時のポイント・安全面などを重点的に指導した。 日頃から児童の運動中の事故防止教育を徹底した。
<ul style="list-style-type: none"> 目標を明確にし、無理なく綿密な指導計画を立てる。 準備運動を念入りに行い、心身ともにリラックスさせた上で取り組む。 指導者が技の指導法を学び、積み上げていく。 易しい技から練習に入り、無理なく技を完成させられるよう指導方法を工夫する。 適度な緊張感と集中力があるような学習環境づくりに努める。
<ul style="list-style-type: none"> 保護者対象の説明会実施 参加承諾書の提出 職員への指導計画書配布

○今年度の指導の反省を踏まえ、さらに改善すべきと思われる点について（自由記述）

小学校	<p>児童の体力低下に伴い、安全に行えない技が増えていると感じる。春の運動会に向けて新年度から指導を始めても無理なので、6年時で組体操の実施を計画するのであれば、学校全体で体力向上の取り組みをしていく必要がある。学年間で系統性をもった指導の計画を進めていきたい。</p>
	<p>4月時点で児童の実態把握をし、段階を追って計画的に指導することを続けていきたい。</p>
	<p>5・6年生合同で行うため、児童数の減少や5年生の体力などを考慮して、実施や内容を検討する。</p>
	<p>安全面には十分配慮し、教員の指導体制も問題なかったが、後半の練習時間が不足したので、指導計画を再検討する。</p>
	<p>児童数が減少する中で、「広がり」のある技で演技を構成する必要がある。また、指導の効果を高めるため、児童に資料を提示する等の工夫も行いきたい。</p>
	<p>今年度は、危険度や難易度の高い技はさけて取り組んだ。成果として個々の技の完成度が高まった。天候不順で屋外練習が十分にできなかったため、来年度は、その時間を十分確保し、より安全に取り組みたい。</p>
	<p>指導計画を基に指導するが、状況によって臨機応変に計画を変更できるよう、学校としての指導の引き出しを増やしていきたい。</p>
	<p>今年度、指導主事にご来校いただき、助言を受けた。その内容を今後も引き継ぐとともに、最新の情報や指導法を確認し、より安全に指導したい。また、練習後半で集中力が欠ける場面が見られたので、子どもの実態に合わせた練習日程・内容を組んでいきたい。</p>
	<p>教諭間に組体操の指導経験や指導力に差がある。また危険性の把握の認識にも個人差がある。そのため、組体操の指導法を伝承していく事が課題である。</p>
	<p>今年度同様、児童の実態に合わせて、職員で共通理解のもと実施していくことが大切である。</p>
	<p>今後も児童の実態に応じた技の選択や職員全体で共通認識をしながら安全面を考慮して取り組む。職員の異動による指導力低下も考えられるので、指導上のポイントや新しい技の研究など、職員での実技研修を開くなど工夫する。経験の浅い職員からベテランまで誰が指導に当たっても良い状態になるよう、指導力の底上げをしていきたい。</p>
	<p>若い教員が増えている中で、指導法の共通理解が一番の課題である。高学年担任となるまでは、組体操の指導に深く関わる機会が乏しく、いざその立場になった時に困るという状況がある。組体操を行う価値を継承し、安全面と子どもの実態を考えて技の難易度を決定する力も必要なので、情報発信や情報共有をより綿密に行っていきたい。</p>
	<p>指導時間に見合った内容となるよう、見直しを行う。今後継続するかどうかを含めて、学校としての方針を体育部と相談し、検討していく必要がある。</p>
<p>どのような技でどのような事故が起きているのかを全教職員で共有することができていなかった。補助に入る際も、これらが理解できていれば、適切な補助をすることができる。</p>	
<p>来年度も、安全に十分配慮すると共に、全職員で共通理解を図った上で実施していきたい。</p>	
<p>児童の体力等の実態に合わせて、組体操にとらわれず表現を中心としたものにするなど教師側が常に状況を把握・判断して取り組む。</p>	
中学校	<p>支援級の生徒を指導する際、具体的にどこまでできるかの判断をもっと早くし、自分で動くことができるようにさせた。また、女子生徒の補助は女性職員で対応したが、高所からの落下の可能性のある時は、再度受け止め方を確認しておく必要がある。</p>
	<p>ダンスと組み合わせた演技だと危険性が増すと感じた。生徒にも理解が深まるよう、無理のない形で指導したが、次年度も演技のポイントはどこにあるかをしっかりと理解させ、実施の可否を判断したい。</p>
	<p>教職員の安全管理に対する意識の統一が徹底できなかった。より安全に行うために、難易度が高いもの（危険性が高いもの）を、より安全なものへ技の変更を検討しなければならないと感じた。</p>
	<p>研修を行うことにより、指導のポイントを全職員が共通理解した上で指導に当たることができた。音楽に合わせて組体操を行ったが、技を焦ってしまう事故もあったので、次年度以降は検討したい。今年度は骨折などの重大事故がなかったため、次年度以降も継続して全職員で指導にあたる。</p>
	<p>生徒の実態に合わせて、演技内容の配慮をする。事故防止のため、教職員の共通理解と指導内容についての改善を図る。</p>

平成29年度 市立小・中学校における「組体操」に起因した事故発生状況（H30年2月末時点）

【本集計資料について】

※独立行政法人日本スポーツ振興センターでは、災害共済給付に係る給付金請求事務等の効率化及び迅速化と、学校災害に関する統計情報の提供の充実を図るため、「災害共済給付オンライン請求システム」を導入している。教育委員会、学校はインターネット経由でシステムへ接続し、請求事務等を行っている。

※このシステムには、災害の状況として「組体操」を選択する機能がある。しかし、「保健体育」からは選択できるが、運動会や体育祭またその練習などの「学校行事」からは選択できないなど、システム上すべての災害で組体操を選択できるわけではない。このため、組体操に起因する災害の一部が含まれていない場合がある。

※したがって、組体操に起因する事故の発生状況の実態を正確に把握するため、災害報告書の「事故の発生の状況」の記述から、組体操の練習中及び演技中に起こったと判断されるものを全て集計した。（災害共済給付金の給付手続きが行われていないものは含まれない。）

1 平成29年度に発生した事故概要一覧

	発生日	学年	性	発生場面	技の系統	発生の状況（概要）	診断結果
1	5月9日	小6	男	練習中	倒立系	補助倒立の練習中、補助をしていた当該児童が相手の足を支えようとした際、左手親指に相手の足が当たった。	左母指MP関節症
2	6月27日	中1	女	練習中	肩車系	サボテンの練習中、下段生徒の上当該生徒が乗った際、下段生徒の短パンのポケットに足指が引っかかり落下、床に腰部を打った。	腰部挫傷
3	8月26日	中3	男	練習中	ピラミッド	ピラミッドの練習中、最終局面で、顔を床にぶつけ、上唇が切れた。	上口唇挫創
4	9月4日	中3	男	練習中	タワー	タワーの練習中、下段で支える練習をしていた際、バランスを崩して腰を痛めた。	腰部捻挫
5	9月6日	中2	女	練習中	タワー	3人組の2段タワーの練習中、上段にいた当該生徒が床に降りようとした際、バランスを崩して落下し、腰部を強打した。	腰部打撲症
6	9月7日	中2	男	練習中	タワー	応援団練習でやぐらを組む練習中、上段に上ろうとした当該生徒がバランスを崩して落下した際、右足首及び右足甲を痛めた。	右足打撲
7	9月8日	中3	男	練習中	ピラミッド	ピラミッドの練習中、一気に崩す場面で、最下段にいた当該生徒が両脚を後方に伸ばした際、右足拇指の爪が剥がれかけた。	足皮膚びらん 趾爪下血腫
8	9月9日	中1	女	発表中	ピラミッド	4段ピラミッドの演技中、一気に崩す場面で、両腕両脚を擦りむいた。	四肢皮膚損傷
9	9月12日	中2	男	練習中	倒立系	帆掛け船の練習中、下段の当該生徒が相手の肩を支えようとした際、左肩を痛めた。	左肩挫傷
10	9月13日	中3	男	練習中	タワー	3人組の2段タワーの練習中、下段の生徒の姿勢が不安定となり、上段にいた当該生徒がバランスを崩して落下し、左腕を打った。	左前腕骨不全骨折
11	9月14日	中1	男	練習中	肩車系	サボテンの練習中、上に乗っていた当該生徒が地面に落ちた際、左足首を捻挫した。	左足捻挫
12	9月16日	中2	男	練習中	倒立系	体育祭前日、支え倒立の練習中、当該生徒が倒立から地面に降りる際、左母趾を痛めた。体育祭当日の競技で痛みが強くなった。	左母趾末節骨骨折
13	10月27日	小6	男	練習中	倒立系	補助倒立の練習中、当該児童が倒立をした際、相手児童が補助することができず、転倒し、右手首を捻挫した。	右手関節挫傷
14	11月2日	小6	男	練習中	タワー	3人組の2段タワーの練習中、下段児童の姿勢が不安定となり、上段にいた当該児童がバランスを崩して落下し、右手を着いた。	右橈骨遠位端骨折

2 事故発生件数の推移

平成29年度、小学校で3件、中学校で11件の事故が発生した。この件数を組体操を実施した校数で割った1校あたりの発生件数は、小学校0.10件、中学校1.22件となる。

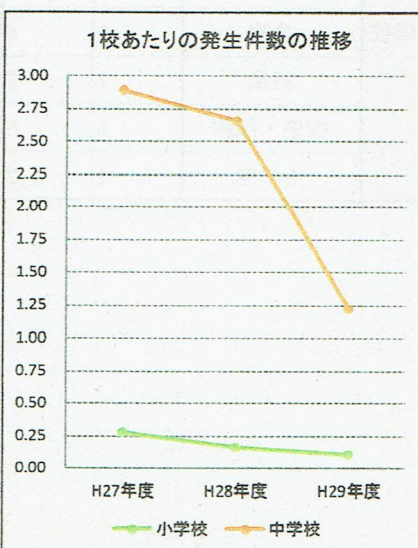
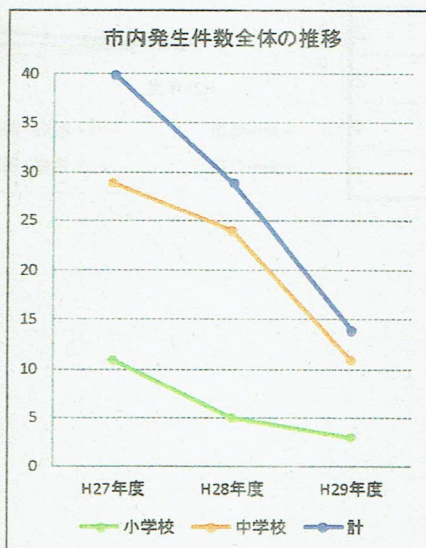
調査を開始した平成27年度以降、小中学校とも、事故発生件数は減少している。

(1) 全体

	H27年度	H28年度	H29年度
小学校	11	5	3
中学校	29	24	11
計	40	29	14

(2) 1校あたり

	H27年度	H28年度	H29年度	
小学校	事故件数	11	5	3
	実施校数	39	32	29
	1校あたり	0.28	0.16	0.10
中学校	事故件数	29	24	11
	実施校数	10	9	9
	1校あたり	2.90	2.67	1.22

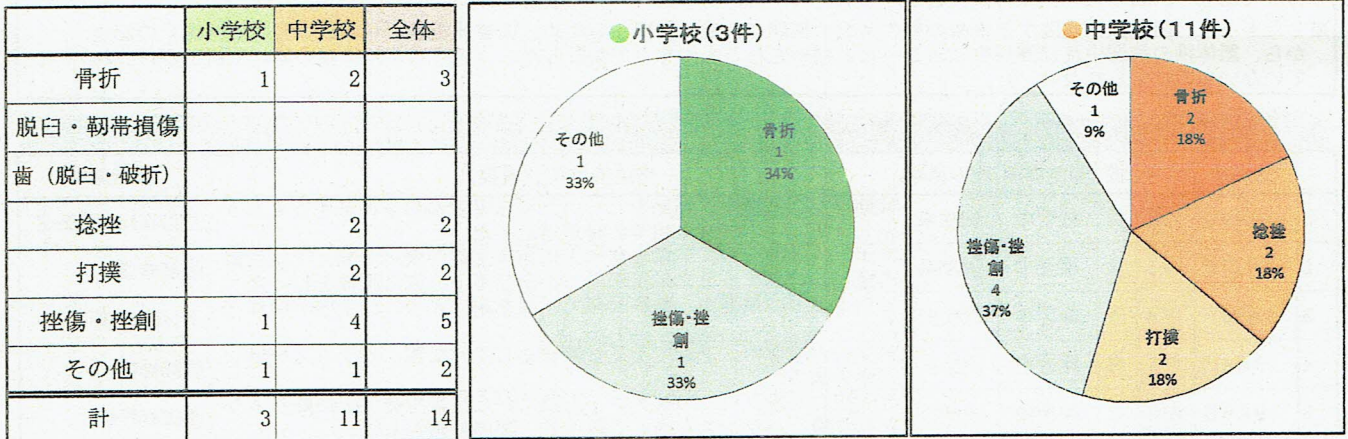


3 傷害種別

平成29年度の事故によって負った傷害の種別を見ると、小学校では、「骨折」「挫傷・挫創」「その他」が各1件、中学校では、「挫傷・挫創」が4件で最も多く、次に「骨折」「捻挫」「打撲」が各2件だった。

平成27年度の調査開始以降、「骨折」「捻挫」「打撲」の件数は減少している。また、平成27年度と平成28年度には、小中学校ともに「脱臼・靭帯損傷」「歯の脱臼・破折」が見られたが、平成29年度は0件だった。

(1) 平成29年度の状況



(2) 年次推移(平成27年度から)

